子どもと絵本そして手作り絵本

川 野　洋 子

子どもと絵本

子どもの頃に出会った絵本・心に残った絵本は、その人の記憶のどこかに必ず残っている。そして、どの本が記憶に残るかは大人になるにつれて分かる事が多い。子どもの頃にその絵本に出会った時、話の面白さ・意外性・衝撃性などの展開に感動するものかもしれない。また、挿絵が目にとまり心に残る事もある。それだけでなくその絵本に出会った季節・時間・場所・読んでくれた人との関係やつながり、その時々の思いなどが記憶に残っている。私が子ども達に絵本を読む時、その絵本を好きになりぜひ読んで聞かせたいと思い心をこめて伝えている。

思い出絵本の中に西内みなみ作・なかのひろたか絵「ゆうちゃんとめんどくさいサイ」がある。「歯をみがきなさい！」とママから言われても、めんどくさがりやのゆうちゃんは「いや！めんどくさい」と言い続け最後は、けむくじゃらのめんどくさいサイの子になってしまうという絵本。幼稚園で３歳児のクラス担任をしていた時のことである。同年齢の子ども達は片付けが上手になっても、ある男の子はなかなか片付けをしない。お母さんからもよく相談を持ちかけられ「どうしたら片付けができるようになるのでしょうか・・・」と頭を抱えていた時に出会った絵本である。幼稚園で読み聞かせした次の日、お母さんから「片付けしなさい！」といつものように言うと「片付けする！」「サイにならん！」と泣き出したと言う。「なにかあったんでしょうか？」と尋ねられその本の話しをすると、「そうだったんですか。自分の事のようにショックだったんですね。」と１冊の絵本の力にお母さんと一緒に私も驚き笑いながら喜んだ事を思い出す。

子育てをしていた時は、「あさえと　ちいさいいもうと」「おいていかないで」「ママ、あててみて」などを描いた筒井頼子作・林明子絵の本に出会った。「おいていかないで」は兄と妹、「あさえと　ちいさいいもうと」は姉と妹、「ママ、あててみて」は母と子のそれぞれ愛情いっぱいの話である。子どもの表情や細かい活き活きとした描写。微笑ましい日常生活の話や会話のやりとりは我が家で起きた子ども達の姿と重なり大好きになった。

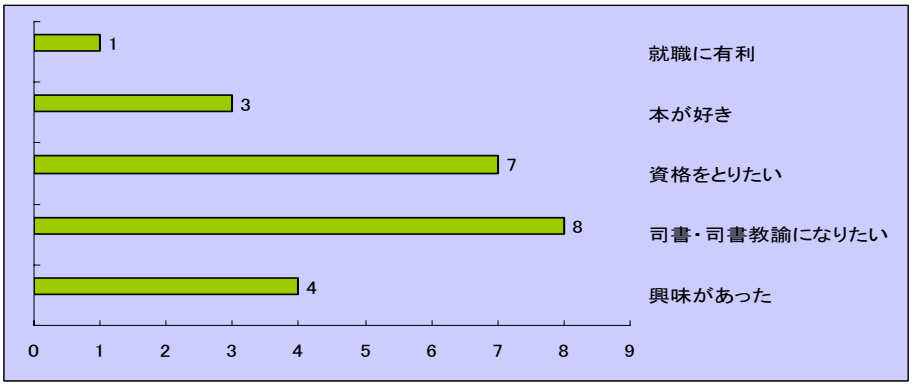
資料特論（絵本作り）

昨年、幼稚園を離れ大学図書館の仕事をするようになり、今年の４月からは司書課

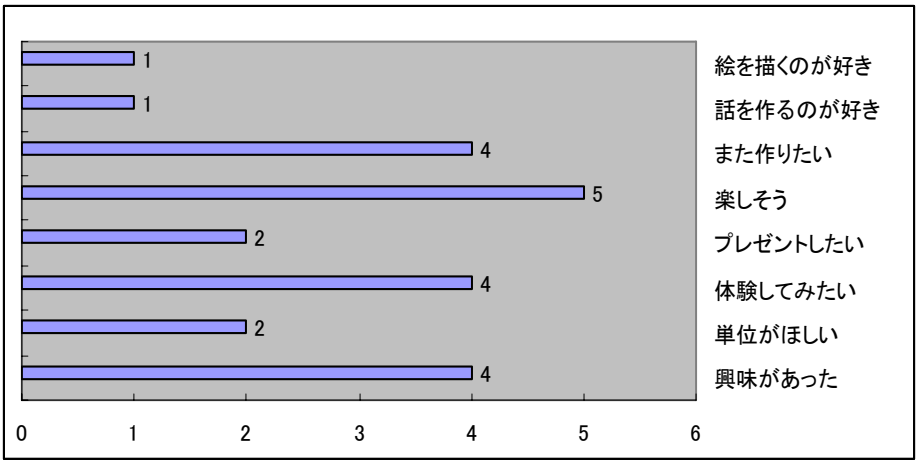
程の資料特論で学生達に絵本作りを教えている。

１回目の講義　「資料特論（絵本作り）を選んだ理由・大好きな絵本は等」
アンケート　2007・6/15　23 名

＊司書・司書教諭の資格をなぜ取得したいと思いましたか。



＊資料特論（絵本作り）を選んだ理由



＊　大好きな絵本は

はらぺこあおむし	6	3 びきのやぎのがらがらどん	3
100 万回生きたねこ	3	うっかりペネロペ	1
恐竜シリーズ	1	14 ひきのひっこしシリーズ	1
おつきさま	1	人魚姫	1
エルマーとぼうけん	1	泣いたあかおに	1
ももたろう	1	どろんこハリー	1
ぐりとぐら	1	象のはなし	1

なぜ、その絵本が好きになったのですか？

○ 父がくれた本で優しい感じの絵本で感動したから
○ 小さい頃母にずっと読んでもらっていたため印象深いから
○ ぐりぐらが料理をしたりするシーンがとても印象的だった。幼稚園の時夢中で読んでいた。
○ 母から読んでもらい動物を通して友情や深い愛というものを改めて感じることができ初めて泣かされた絵本だった。
○ 小さいページがあってめくっていくとあおむしが食べ物を食べていきおもしろく色がとても鮮やかできれいなので好きになった。
○ 幼稚園の年中組で出合った。穴があいている本。その感覚、工夫に新鮮さを感じた
○ 愛され続けても誰も愛さなかったネコが最後には自ら愛して相手を大事にするところが読んでいて幸せな気持ちになれるから
○ 犬のハリーがすごく可愛らしく面白絵本。家で飼っている犬の名前も「ハリー」になった。

最後の講義では、「絵本発表会」をする。聞きながら印象に残った作品やその理由。初めて絵本づくりをした感想なども聞いている。

絵本作りを完成させた感想

○ ストーリを考える時が楽しかった。絵を描いて色を塗っていくときも出来上がっていくのにわくわくした。製本作業もむずかしかったけどみんなでやるのが楽しかった。
○ 話の内容を考えて絵や文字を書き込むのに意外と時間がかかることに驚きました。自分の考えた通りの絵がうまく描けないことに苦労しました。
○ 絵や文字の配置を考えるのが大変でした。でも、作るのはとっても楽しくてもうちょっと時間があったらよかったのにと思いました。また作りたい。
○ 本を作る大変さを知ったので何気なく見ていた本達 1 冊 1 冊が、誰かが必死に作ったものだという思いを持って接するようになれました。すごく面白かった。
○ 自分が考えて作ったものが 1 冊の本になっていくところが感動した。
○ 頁ごとの張り合わせがずれて合わせられなかったり、定規で長さを mm 単位で測ったりするのに苦労し大変だった。
○ ハードカバーの本を見るたびに苦労しているなぁとおもいました。ハードカバーは「値段が高い」という理由がわかりました。
○ 自分が子どもの時に読んでいた本を思い出しながら「こんな構成ならきっとおもしろいだろうな」と考えながら作った。なかなか難しかった。

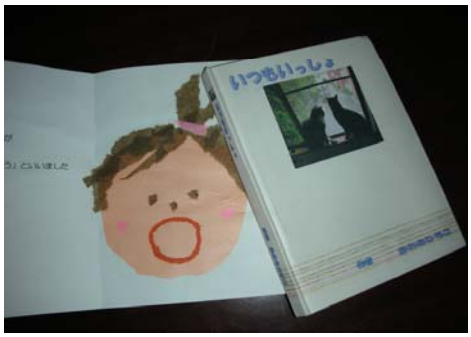
絵を描くのが得意だが文を考えるのに時間が要したり、本を作る作業（ハードカバー）を体験したりしたことは、少なからず本にまた愛着が持ててきたようだ。

絵本作りの１回目講義の時、学生に紹介する本の中にレオ・レオーニ作「あおくんときいろちゃん」がある。

レオ・レオーニの作品「スイミー」は学生もよく知っているのだがこの本はほとんど知られていない。2人の孫との語らいで生まれた本。汽車の中でライフマガジン誌の広告ページの青い紙と黄色い紙をちぎって2 人の子どもにお話を作ったことが始まりだそうだ。レオ・レオーニはその即興の作品が気に入って早速ダミーを作り、友人の子どもの編集者に見せ、四色製版のカラー印刷技術を見事に生かした。

49 歳の時（1959 年アメリカで出版）の作品である。色と形を感情移入させ抽象的に語っている絵本。色も、形も、言葉も、これ以上簡潔なものはなく、この物語の全てを抽象的に語っている。また、「あお」「きいろ」が重なり「みどり」になるところは愛情をこめて抱きしめる行為を指し、欧米人、特に子どもたちの大好きな行為である。「あおくん」と「きいろちゃん」だけでなくパパやママもお互いに抱きしめ合い、その出会いの喜びを表現している。

おわりに



絵本はハードカバー製本方式。実際に本を作って見ると、最初の１冊は満足なものが作れないかも知れない。しかし、初めての１冊で製本行程を知りながら、紙の性質や接着方法を体験し、本の構造がはっきり理解してくる。

1 冊の本を作り始める時に「誰に読んでもらいたいか」「誰に見せたいか」を最初に決めて考えることを必ず伝えている。学生と一緒に語らいながら作る講義は私自身も楽しいひと時である。

参考文献　　「絵本の歴史をつくった 20 人」鳥越　信　　㈱創元社

かわの　ひろこ（別府大学　附属図書館）